

卷頭言



『e-journal「学会誌 JSPEN」創刊にあたって』

一般社団法人日本静脈経腸栄養学会 理事長
藤田医科大学医学部外科・緩和医療学講座教授

東口 高志

一般社団法人 日本静脈経腸栄養学会 会員ならびに本学会をご支援いただいております皆さま、新年、明けましておめでとうございます。ここに謹んで新年のお慶びを申し上げますとともに、本年も引き続き本学会をよろしくお願ひいたします。

さて、本学会が関わる種々の代謝栄養学や栄養療法等に関する知識・技術・理念などの管理・発展・普及ならびにその方法論について、これまで長きに渡り検討ならびに討議してまいりました。その結果、今回新たに e-journal として『学会誌 JSPEN』を創刊する運びとなりました。

昨今の医学・医療情勢を様々な角度からとらえ、その情報の集約と拡散は、グローバル化の波の中で速さと簡便さが大きく求められるようになりました。そのため、今回の e-journal 創刊は社会のニーズに対する必然であり、本学会がかかわるすべての代謝栄養学やその管理方法ならびに栄養療法を正しく普及・浸透し、未来に対してさらなる発展に導くためには無くてはならないものと考えております。

2018 年 12 月 22 日（土）に平成 30 年度第一回臨時社員総会が東京にて開催されました。そのなかで 2020 年 1 月 1 日付けで、一般社団法人『日本静脈経腸栄養学会（JSPEN）』は、一般社団法人『日本臨床栄養代謝学会（JSCNM）』と改名することが満場一致で決まりました。改名の理由といたしましては、以前より厚労省をはじめとする各種政府および医療関連団体より、現行の学会名では実際の活動に一部そぐわないところがあり、学会名から想起されるイメージも重視し大切にして欲しいとのご指摘やご要望をいたしました。また、世界に目を向けましても数年前に欧州静脈経腸栄養学会（European Society for Parenteral and Enteral Nutrition : ESPEN）も欧州臨床栄養代謝学会（European Society for Clinical Nutrition and Metabolism : ESCNM ですが通称は ESPEN のまま）へと改名いたしました。この際に、当時の理事長であったゴッサム先生に日本語への翻訳名について確認しましたら、やはり静脈経腸栄養ではなく、幅広く臨床栄養と代謝を取り扱う学会に生まれ変わるためにこの名称へ変更したことでした。これらのことから、このたび本学会も、わが国に搖るぎない栄養療法・栄養管理体制を構築するためにより分かり易くかつ明確な意思を示す名称へと改名し、あたかも卵から孵化しさらに大きな目的に向って成長し羽ばたくための母胎づくりといたしたいと存じます。ここで、『JSPEN』という名称はどうなるのかという疑問が浮かんできます。そこで社員総会にて、本学会の理念を『Justice, Science, Practice and Education for Nutrition』とし、その略として『JSPEN』の名を改めて掲げることに決定しました。今回の e-journal 『学会誌 JSPEN』の創刊は、2020 年からはじまる本学会の新たな歴史のページを記す先駆けともいいうべきものです。是非とも皆さまのご協力のもと、この e-journal 『学会誌 JSPEN』を新しい形の学会情報誌として大きく育てていただければと心よりお願い申し上げます。

新年早々の新しい門出に際しまして、本学会に取りましてもこの e-journal の創刊は大きな未来への一歩でございます。なにとぞ引き続き温情溢れるご協力ならびにご支援をよろしくお願ひいたします。